

若年者の結婚意思決定の研究(1)

—20代未婚者における交際相手との結婚意欲—

労働政策研究・研修機構 高見具広

1. 目的・方法

本報告では、交際相手のいる20代の未婚男女における結婚意欲を問題にする。そして、結婚意欲が何によって左右されるか、その男女差を含めて検討するとともに、実際の結婚決定に至るまでのプロセスを考察する。

現代の少子化の要因のひとつに、平均初婚年齢の上昇に表される晩婚化の進行がある。晩婚化の背景には、出会いの機会が狭まり、交際開始のタイミングが遅くなっている側面もあるが、交際カップルにおける交際期間の長期化も関係しよう。例えば、国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査」によると、過去5年間の結婚について、出会ってから結婚するまでの平均交際期間は4.3年と、1987年に比べて1.72年長い。

では、なぜカップルは早いタイミングで結婚に進まないのか。具体的には、平均初婚年齢が30歳頃になる中、20代のカップルが結婚を躊躇する背景に何があるのかを問うことに意義があろう。

本報告では、こうした問題意識に基づき、交際相手のいる20代未婚男女の結婚意欲と、結婚決定までのプロセスを問題にする。カップルが結婚を決めるには、男女双方の結婚意欲が重要な条件であり、まず、男女双方の結婚意欲がどのように高まるのか(高まらないのか)を検討する必要がある。なお、結婚意欲を高める要因、阻害する要因は、男女で大きく異なる可能性もある。未婚者の結婚意欲については既存研究に知見の蓄積があるが(内閣府経済社会総合研究所2015等)、本報告では、仕事・収入など経済的な要素のほかに、交際相手との付き合い方、親戚・親類や友人など周囲の人間関係からくる規範的な影響も視野に入れて考察したい。

研究方法は、内閣府経済社会総合研究所が2016年に実施した「結婚の意思決定に関する意識調査」の個票データ分析による。

2. 結果・結論

カップルが結婚を決めるには、男女双方の結婚意欲が重要な条件である。しかし、20代においては、女性に比べて男性の結婚意欲が弱く、カップルの結婚決定を阻害している可能性がある。

男性の結婚意欲は、正規雇用であるかや将来的なキャリア展望を描けるかといった本人の仕事によって大きく左右される。加えて、長期の交際など、交際相手を見極めた上でないと結婚意欲が高まらない面もある。さらには、20代後半まで親と同居することによる結婚規範意識の弱まりが結婚意欲を阻害する一方、親戚・親類付き合いは、規範意識を高め、結婚意欲を刺激しうる。

女性の結婚意欲は、友人関係など周囲からの影響によって左右される部分が多い。具体的には、結婚して子どものいる友人数が多いほど、結婚規範のみならず、親になった自分をイメージできるなど、次のライフステージに向けた展望を描きやすく、それが結婚意欲を高めている。

カップル男女で結婚意欲(の高まり)にズレがあれば、たとえ片方の結婚意欲が高くても、双方での結婚合意(意思決定)にはいたりにくい。20代カップルにおける結婚決定のカギは、周囲からの影響や規範意識によって先に高まりやすい女性の結婚意欲に、男性が答えられるかにある。カップルが結婚決定にいたるには、男性の意思決定が重要な役割を担っており、男性の結婚意欲をいかに喚起するかが課題であろう。

文献

内閣府経済社会総合研究所(2015)「少子化と未婚女性の生活環境に関する分析」ESRI Discussion Paper Series No. 323.